

第 4 回 定 期 研 究 会
特 別 会

平成 28 年度 SGST 第 4 回定期研究会【特別会】

「ヨーロッパの橋梁の動向」 議事録

日時：平成 28 年 10 月 24 日 14:00～17:30

場所：名城大学 天白キャンパス 研究実験棟Ⅱ 多目的室

出席者：安藤(浩)，飯田，櫻井，所，松村【瀧上】，入山，太田【中日本C】，宇佐美【宇野重工】，岡田(武)【中部地整】，岡本(利)【橋梁調査会】，加藤(正実)，小塚【中日本H】，川瀬【日中C】，館石，北根，清水(優)，判治，廣畑【名古屋大】，木下【岐阜大】，小枝，萬谷【川田】，篠原【オリエンタルC】，高橋(陸)，長瀬，平野【日車】，竹内【福美建設】，土橋，白水【横河ブリッジ】，藤井【パルステック】，水谷，土井【JFE】，水野【サンワ】，村瀬(佐)，村瀬(敏)【愛知県】，山田(博)【ヤマダイインフラ】，六郷【岐阜大】，木代【阪高技術】，上野臺【巴コーポレーション】，田巻【川田テクノ】，三ツ木【平設計】，藤井(一)【宮地】，菅沼【TTES】

以上 42 名(敬称略)

1. 定期研究会

講演① (14:00～14:50)

講演者：中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株) 山田健太郎様

講演項目：【「鋼橋」の翻訳出版の報告とスイスの鋼橋】

講演内容

講演【「鋼橋」の翻訳出版の報告とスイスの鋼橋】：

スイス工科大学ローザンヌ (EPFL) は、国際的によく知られた大学である。その土木工学科では、学部、大学院、技術者向けのテキストを作成しており、そのうちの「鋼橋—鋼橋および合成橋の概念と設計」を山田先生他皆様が翻訳、鹿島出版会から出版された。基礎的な設計の考え方や構造詳細について詳しく書かれているため、その内容の一部を参照しながら、スイスあるいは欧州の鋼橋の動向を紹介された。

日本は、世界一の中央径間を持つ明石海峡大橋を持つことから、長大橋における鋼橋の設計、製作、架設の技術は高い。欧州での中小スパンの鋼橋、鋼・コンクリート合成橋の考え方とわが国との違いについても述べられ、そういったことを考える際、今後のわが国の鋼橋分野の国際展開にも重要であろうと述べられた。

講演② (14 : 50～16 : 00)

講演者：中日本高速道路(株) 牧田通様

講演項目：【①スイスの著名な技術者とコンクリート橋】

【②超高性能繊維補強セメント系複合材料 (UHPFRC) を用いた橋梁の補修・補強】

講演内容【①スイスの著名な技術者とコンクリート橋】：

スイスの著名な技術者と彼らが設計・考案した構造物の中でコンクリート橋を中心に、年代の古いものから新しいものまで紹介された。

講演内容【②超高性能繊維補強セメント系複合材料 (UHPFRC) を用いた橋梁の補修・補強】：

スイス連邦工科大学ローザンヌ校で研究・開発され、スイス国内での適用が近年増えつつある超高性能繊維補強セメント系複合材料 (Ultra High Performance Fibre Reinforced Cement-based Composites, UHPFRC) を用いた橋梁の補修・補強工法について、工法のコンセプト、材料の特性及び適用事例等を説明された。

講演③ (16 : 00～17 : 30)

講演者：(株)IHI インフラシステム 山崎康嗣様

講演項目：【Izmit Bay Bridge とヨーロッパの長大橋】

講演内容【Izmit Bay Bridge とヨーロッパの長大橋】：

トルコのイズミット湾吊橋は、中央径間 1550m の上下 3 車線の道路吊橋で、2013 年 1 月初め着工以来 3 年半後の 2016 年 6 月末に発注者に引き渡され供用開始された。ヨーロッパでは、トルコで第三ボスポラス橋、ノルウェーでハローランド橋、英国で第二フォース道路橋が現在建設中で (第三ボスポラス橋は 8 月 26 日開通)、トルコでダーダネル海峡大橋、ノルウェーでブローノフィヨルド大橋等が将来の長大橋として計画されている。その中でイズミット湾吊橋の工事概要と共に、ヨーロッパにおいて現在建設中および計画中の長大橋について紹介された。

3 講演ともに、普段聞くことのできない貴重な講演内容であり、海外の橋梁技術や長大橋の実施工の体験談など、非常に活発な質疑応答が行われた。

以上